

先進的モデル地域：安芸高田市立向原中学校区		
連携地域を構成する学校		
学校名	学級数	児童生徒数
安芸高田市立向原小学校	8	93
安芸高田市立向原中学校	5	72

(R6.12.1現在で記入)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの創造 ～探究的な学びを中核としたカリキュラムの開発を通して～
--

(2) 特色

『探究×未来チャレンジ』

- ・探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自分事として考え、主体的に判断・選択し、人とつながりながら課題を解決する児童生徒を育成する。
- ・探究的な学習を通して、自分の「価値」を理解し、実生活や実社会で生かそうとする児童生徒を育成する。

(3) 系統的に育成を目指す資質・能力

資質・能力	目指す生徒の姿（中学3年生）
表現力	・自分の思いや考えを、根拠を明確にし、相手に理解してもらえるように表現する。
主体性 ・協働性	・お互いの思いや考えを共有しながら、問題解決に向けて共に取り組む。
向上心 →先見力	・目標を達成するために計画を立て、自己調整しながら行動する。 ・自分の将来像を実現するために、計画を立てて行動する。

(4) 研究内容の概要

《探究的な学びを中核にしたカリキュラム開発》

本中学校区では、令和2年度からの安芸高田市の重点施策である「未来チャレンジ探究学習」をベースにしたカリキュラムの開発に努めた。

「未来チャレンジ探究学習」とは 自ら課題を見つけ、自分事として考え、主体的に判断・選択し、人とつながりながら課題を解決する力を育てる目的で、PBLの考え方を取り入れて行う探究学習（安芸高田市教育委員会）
--

向原小学校では、3～6年生が「My探究」に取り組んだ。1・2年生の生活科においては、自分自身や自分の生活について考えたり、身のまわりの物や人の良さや関りに気づいたりする学習活動に重点を置き、「My探究」につながるよう留意した。チーム担任制の特色を生かし、複数の教員が学習に関わることで専門性を発揮できる指導を目指した。

向原中学校では、職場体験活動や進路学習を「My探究」と関連付けることにより、「キャリア教育」と探究的な学習の融合を図った。

《PBLの考え方を取り入れた総合的な学習の時間の単元開発》

総合的な学習の時間においては「未来チャレンジ探究学習」の進化・深化を目指した。

向原小学校では、自分の好きを追求する「My探究」を行った。3～6年生を縦割り班に分けて個人探究を行うことにより、下級生が上級生を手本としながら主体的に探究活動を進めることにつながった。また、研究推進リーダーが小学校の「My探究」の指導

に力めることにより、小中の連携を深め、1（3）の資質・能力を一貫して育成することを目指した。

向原中学校では、自分の「興味・関心」に基づいた「問い」を立て、「地域・社会」に提案することを目指した「My探究」を行った。「問い」や検証方法について、批判的思考力を働かせて対話や協議をする時間を意図的に設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図った。

2 実践事例

◆探究活動に係る指導技術の向上

中学校区の教員が探究活動についての理解を深め全員が一貫した指導ができるよう、前田康裕特任教授（熊本大学大学院教育学研究科）を2回招聘し小中合同授業研究会を行った。指導助言においては、「探究」と「研究」の違い、「課題」の見つけ方、コーチング・ファシリテートの手法、教科横断的な探究活動のカリキュラム・マネジメントの考え方を学んだ。授業研究会の後は、研究推進リーダーが「まとめ」を作成・共有し、指導技術の再確認と定着を図った。

《向原小学校の実践》

◆チーム担任制のメリットを生かした縦割り班での「My探究」

向原小学校では3～6年生にチーム担任制を導入している。その体制を生かし、3～6年生を一斉に総合的な学習の時間として異学年の縦割り班での「My探究」を実施した。複数の教員が、3～6年生の児童への理解を同様に深め人間関係を築いているという土台があることにより、個々の児童への個別の支援がしやすく、教師間の連携も取りやすかった。また、探究テーマの分野別で編成した班に、個々の教員の専門性を加味して配置し、それぞれの専門性を生かした指導を意図した。異なる発達段階の児童が共に学び合うことで、学年を越えて学び合ったり協力して検証を進めたりするなど、主体性・協働性の育成にもつながった。

なお、個々の興味・関心を軸に探究テーマを設定する場面や、互いの「My探究」を発表し合い協議することで批判的思考力を養う場面は学年別の学習とし、発達段階を揃えること・混ぜることによる学習効果が発揮できる体制での探究活動になるよう工夫した。

◆リモートでの全体指導

縦割り班での探究活動においては、研究主任が授業の導入部分で「探究活動のポイント」をリモートにより全教室の児童に伝えた。「問い」の立て方、有効な調査方法（アンケートの目的と活用の仕方、実際にやってみることの大切さなど）、まとめ方、良い自己評価について伝え、全ての班で共通理解のもと「My探究」に取り組めるようにした。また、授業の終盤で児童の自己評価をリモートで発表し合い、探究活動での学びを共有し「良い自己評価」に触れることができるようにした。

◆児童にとって親しみやすく分かりやすいキーワードの提示

向原小学校では昨年度から一人一探究を実施しているが、昨年度の取組では、児童が「調べ学習」に終始し、探究のサイクルのある活動になり切らなかったという課題があった。そこで、今年度は、調べたことをまとめるだけでなく、実際に自分で何か行動して「My探究」を進めることを目指した。その手立てとして、「3みる」（聞いてみる・行ってみる・やってみる）というキーワードを提示し、“実際に行動して検証する”ことを促した。児童にとって親しみやすく分かりやすいキーワードを提示することで、児童はよりよい探究活動のイメージをつかみやすくなり、実際の行動への意欲付けとなった。また、「3みる」をしているかどうかを「My探究」の一つの評価の観点として浸透させることで、より多くの児童の活動が調べ学習から探究へとレベルアップした。また、互いの「My探究」を発表し合いアドバイスをし合う場面

では「なるほ度！」（探究の内容を聞いた理解度・驚き度・納得度を示す）を星印の数で表すワークシートを使い、「なるほ度！」を多くもらえる探究にしよう、というモチベーションにもつながった。

《向原中学校》

◆探究活動に必要な知識・技能の整理と定着

1年生の「My探究」では、探究のサイクルを進めながら探究活動に必要な知識・技能の整理と定着を図った。例えば、「まとめ・表現」で使用するスライドの様式を統一し、始めに生徒に配付することで、探究のサイクル（2回転）を可視化し、「My探究」の全体像を掴ませた。生徒が「My探究」を進めながら同時にスライドにまとめていくため、教員は個々の進捗状況を把握しやすく、支援が必要な生徒への適切なタイミングでのコーチングにつながった。単元の中では「課題の設定」の指導に重点を置き、ウェビングマップを書かせて「興味・関心」を想起・整理させた。また、「探究に耐えうる問いか」という点において、教員との個別のカウンセリングやコーチングを行い、生徒が自分の「問い」を吟味する時間を確保した。これらのことを通して、小学校で経験してきた探究活動に必要な要素（知識）を整理し、より適切に使える技能の定着につながった。

◆批判的思考力を働かせた対話や協議

3年生の「My探究」では、単元全体を通してペアやグループで互いの「My探究」について対話や協議をする機会を意図的に設定した。例えば、『「問い」と仮説、検証方法は適切だろうか？』『「My探究」を「他者への提案」へと進化させるには？』などという学習課題を設定し、生徒同士の協議を行った。また、協議の視点を設け、他者の「My探究」についての評価をワークシートに書きとめることにより、どの点に注目して考え伝え合うべきなのかを明確にした。探究のサイクルの中で、「問い」や仮説、検証方法、まとめ方等が“適切か”“十分か”に立ち返るような批判的思考力を働かせる場面を適宜設定することで、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図った。

3年生は吉田高等学校探究科の生徒と共同授業を2回行った。自分が立てた「問い」や検証方法について高校生に説明することによって自分の探究への理解が深まったり、高校生から指摘や助言を受けることによって「My探究」の進め方を改善したりすることもできた。高校生の批判的思考力に触れることが生徒の思考力・判断力・表現力の向上につながった。

◆振り返りの共有による探究活動の深化

前時の自己評価の中で、自分の学習が深まった点や逆によく分からなかったことを明確に記述しているものを選び、授業の始めに共有した。自己の学びを客観的に理解すること（メタ認知）ができて自己評価を共有することにより、前時の学習のポイントを再確認し、本時の学習課題をより良く把握することにつながった。また、「良い自己評価」に触れることで振り返りの記述の変容も見られ、生徒のメタ認知力の向上ができたと考える。また、他者の考え方をすることにより、多角的な思考力の向上にもつながったと考える。

3 研究の成果と課題等

(1) 成果

◆探究活動に係る指導力の向上

探究学習についての教員の理解や、コーチングやファシリテーターの指導技術が向上した。（別紙提出資料参照）

◆知識・技能の定着、主体性・協働性の向上

自分の興味・関心に基づいた探究学習を通して、児童生徒が探究活動に係る知識・技能を身に付けさせることができた。また、

自分の好きなことや興味・関心のあることについての知識を深めたり、友達と協議・協力しながら探究活動を進めたりする、主体性・協働性の向上を見取ることができた。

【下表：児童生徒へのアンケート結果より】

※上段小3・4、下段小5・6／肯定的回答%

知識・技能	自分でテーマを決め、情報を集め、整理・分析することができた。	100
		96.7
向上心	相手に理解してもらえるように、まとめ・表現できた。	100
		93.5
主体性・協働性	自分の好きなこと、興味・関心のあることをより深く知ることができた。	100
		96.7

※★中1、★★中3／上段：中1、下段：中3／肯定的回答%

知識・技能	「My探究」を進めるための手順や方法を理解している。	74.1
		88.9
主体性・協働性	自分の興味・関心に基づいたテーマについて「問い」を立て、それを解決するための検証を適切な方法で実施した。	85.2
		88.9
主体性・協働性	自分の意志で課題の解決に取り組み、興味・関心を★深めた★★地域・社会で生かす方法を考えた。	85.2
		88.9
主体性・協働性	友達とお互いの★思いや考えを共有しながら協力して★★改善点を伝え合いアドバイスをし合いながら、課題の解決に取り組んだ。	85.2
		88.9

(2) 課題

◆職場体験活動と「My探究」とのつながり

職場体験活動での学びや発見を「My探究」につなげ、生かすことができなかった。

◆「他者」「地域・社会」に向けた表現

小学生の肯定的回答が一番低かったのは発表についての項目で、友達や保護者の前で発表することに抵抗を感じた児童がいたことが分かる。また、小中全体では、「My探究」をアウトプットする（発信・提案・提言など）相手（友達・家族・地域・社会など）を明確にしておらず、「他者」「地域・社会」への提案・提言につながる探究学習には十分にならなかったことを課題と考える。

【下表：児童生徒へのアンケート結果より】

※上段小3・4、下段小5・6／肯定的回答%

表現力	一人一探究の活動で、発表することは楽しかった。	100
		96.7
表現力	検証や調査をもとにした★客観的な★★客観的で説得力のある根拠を示して発表した。	59.2
		72.3
	★「他者」★★「地域・社会」に向けた、具体的に実現可能な提案・提言をした。	55.5
		66.6

(3) 今後の改善方策等

◆「My探究」をアウトプットする相手を明確にして探究活動に取り組めるようにする。

◆職場体験活動を探究のサイクルに有機的に組み込み、探究活動とキャリア教育とのより一層の融合を図る。

◆縦割り班での「My探究」の進め方を工夫し、異なる発達段階の児童生徒が共に学ぶことによる学習効果を向上させる。

◆批判的思考力を働かせた対話や協議による学習活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

◆個人内評価をより見取りやすくするために自己評価の蓄積方法を工夫する。